

HDS027-P01

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 16:15-18:45

岩手・宮城内陸地震によって一迫川上流域で発生した崩壊にみられる地質の影響 Effect of geology on the landslides by the Iwate-Miyagi Inland earthquake in the upper reach of Ichihazamagawa River

大丸 裕武^{1*}, 村上 亘¹, 多田泰之¹, 岡本 隆¹, 三森利昭¹, 江坂文寿²

Hiromu Daimaru^{1*}, Wataru Murakami¹, Yasuyuki Tada¹, Takashi Okamoto¹, Toshiaki Sanmori¹, Fumitoshi Esaka²

¹ 独立行政法人森林総合研究所, ² 林野庁東北森林管理局

¹FFPRI, ²Tohoku Regional Forest Office

2008年の岩手・宮城内陸地震によって多数の崩壊地が発生した一迫川上流域の層序と地質構造を現地調査から明らかにするとともに、航空機レーザープロファイラー測量による地形解析によって、崩壊発生斜面の地形の特徴について検討を行った。一迫川上流域では軟岩で低密度のある小野松沢層を高密度で柱状節理が発達した北川溶結凝灰岩が覆う典型的なキャップロック構造を呈している。川原小屋沢と一迫川の合流点より北の地域では、北川溶結凝灰岩の下に古い山地地形が埋没しているために、キャップロック基底の高度が南側の地域に比べて著しく高く、このことが大規模な崩壊につながったと考えられた。この地域において、2008年の地震で発生した大規模な崩壊は川沿いの急斜面が多く、荒砥沢や耕英地区などで見られた流れ盤側斜面における地すべり性の崩壊は少なかった。北川溶結凝灰岩の下に埋没した過去の山地地形によって、キャップロックの基底が凹凸に富む形状を持っていることが、この地域の崩壊の形態に影響していることが考えられた。

キーワード: 岩手宮城内陸地震, 崩壊, キャップロック, GIS

Keywords: Iwate-Miyagi Inland Earthquake, landslide, caprock, GIS